

令和5年度 学校関係者評価報告書

(大原スポーツ公務員専門学校高崎校)

1. 実施日時

令和5年8月8日(火) 15時00分～16時00分

2. 場 所

大原学園高崎校4階IT LABO-A教室

3. 学校関係者評価委員

金光寛之 様 (高崎経済大学 教授)

市川芳美 様 (近隣住民)

大谷優作 様 (本校卒業生 株式会社ファクトリージャングループ)

今井祐希 様 (本校卒業生 群馬県学校事務(高崎市立多胡小学校))

(事務局)

古堀 照久 (大原学園高崎校 校長)

松山 賢志 (大原学園高崎校 教務次長)

棗 正志 (大原学園高崎校 教務課長)

松岡 佳吾 (大原学園高崎校 教務課長代理)

小金澤 聡大 (大原学園高崎校 教務課長補佐)

外山 和哉 (大原学園高崎校 総務課長)

4. 会 議 録

(1) 学校長挨拶

(2) 令和4年度各コース実績・カリキュラムに関する報告、自己点検・評価報告

新型コロナウイルスも少しずつ平常化した令和4年度は、概ね通常通りの受験・就職指導ができていた。その甲斐あって、令和4年度の大原学園全国専門課程の就職内定率や公務員採用率、資格取得率、卒業生・在校生満足度調査結果など、例年同様の良好な成果を収めることができた。また、高崎校においては、学園全体の成果に見劣りしない成績が出せており、各コースに応じた受験指導や専門的技能の実践教育が図られ、安定した資格取得率・合格率を維持できていた。なお、退学者抑止に関して、保護者の思考が年々変化してきており、一部のクラスに課題が残っている。

令和4年度における大原学園高崎校の自己点検・評価については、コロナ禍前の状況に戻

りつつ良好な結果であり、前年度同等以上の成績、評価を残すことができ、円滑な学校運営が行われていた。また、教育理念に基づいた運営方針を明確に定め、教育理念を達成するために目標達成プログラムの導入、事業計画の策定、各研修制度の実施を通じて有為な人材育成が行えていた。予算実績も規定通り適切に行えており、財務状況も安定していた。

令和5年度も引き続き、高成績を残すために教職員の資質向上、学生の学びの機会の提供や継続、即戦力としての人材育成、社会活動や地域貢献・ボランティア活動等の継続をはじめとして、退学者抑止のための取り組みなど各委員のご意見を参考にして適切な学校運営を行なっていくこととする。

(3) 学校関係者評価委員会からの提言

➤ 『女性が活躍できる環境また育成方法』について

《関連する項目》

3-9-4 授業評価を実施しているか、3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか

《現状・達成指標》

- ・外部者の意見を取り入れながら教育課程へ反映させている。令和4年度から学園全体で進級生と卒業生に向けて、満足度調査を開始した。結果は学園平均81.2%に対して、高崎校は86.0%が満足しているという結果となった。今後、更に満足度を向上させていきたいが、学生も約半分が女性ということもあり、女性目線も大変重要と考えている。高崎校では女性の一般職は活躍しているが、学校全体に影響力を及ぼせる女性管理職は現状不在となる。女性が活躍できる環境や育成方法を是非委員の方々からご助言を頂戴したい。

《学校関係者評価委員会からの提言》

- ・現在は自営業なので、そこまで意識したことが無いが、以前保育士をしていて時は逆に男性がおらず、女性しかいない職場であり、それが当たり前になっていた。その為、男性、女性でわけるのでなく、その人を評価することが大事だと思う。(市川委員)

➤ 『中途退学への対応』について

《関連する項目》

5-17-1 退学率の低減が図られているか、5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか、5-20-1 保護者等の連携体制を構築しているか

《現状・達成指標》

- ・経済的理由、精神疾患等で退学を余儀なくされる学生が増加している。退学の兆候が発見されて時点で本人そして保護者等の連絡までしている。ただ、保護者に連絡しても子供に全てを任せているなど、非協力的な家庭も増えている。上司・部署全体での情報共有を行い、全員で対応することが理想的だが、現状若手担任のスキルを上げ切れていないのが高

崎校の課題となる。学校としての退学率目標は5%以内だが、今年度も達成出来るかちょうど瀬戸際となっている。最終的に学校として退学者を出さないようにする為に、何をすればいいか、様々な視点でご助言いただきたい。

《学校関係者評価委員からの助言》

- ・とにかく学生個人に対して手厚くすることが必要だと思う。面談回数など。退学するには理由があるわけだからそれを掴むことが重要。学生の素養を知る為に、最初の段階で出身地など属性を把握するようにしている。ハラスメントなど社会問題もあるが、徐々に相手の懐に入ることを意識している。こちらに気づいてほしい学生は増えている。(金光委員)
- ・元々、学校に入りたい目標があって入学してきているが、他にもサークル活動が楽しい、友人がいるから学校に行こうなど、別のきっかけがあれば良いと考える。少なからず意識が引く入学者もいる。授業が終わった放課後などに少人数クラスにして対応するなどして、成績が伸びれば出来たという感覚ができれば、彼らも変わるのではないかと考える。また、小学校の学校事務をしているので、保護者から色々な連絡をもらい対応する立場だが、連絡をもらった場合は自分で抱えず、関係各所へ共有相談した上で回答するようにしている。(今井委員)
- ・入学目標を明確にもって入ってきた学生は、先生達に指導や言葉をもらおうと嬉しかったが、そうでない学生はそうはならない。現実には難しいと思うが、理想は教職員の数を増やして個別対応を増やすことになる。(今井委員)

5. 学校関係者評価委員会総括

これまでの就職先や資格習得率などの実績や多くの卒業生の活躍から、令和6年4月開校の高崎情報ITクリエイター専門学校の学生募集が順調と聞いている。高崎校開校以来、教職員が一丸となって学校運営・教育活動に取り組んだ結果だと思われる。コロナ禍でも大原ポータルなどのシステムやオンライン授業を活用しつつ、対面授業やコミュニケーションを重視した場を提供していることも一因だと感じた。学生や保護者の考え方の変化があることから、コミュニケーションの方法や利用も教職員側の変化と成長が必要であることが伺える。引き続き、人材育成を通じて地域貢献そして社会的役割が果たせるよう取り組んでもらいたい。

委員一同としては客観的な視点から様々な提言をして大原学園高崎校が成長し、更に社会全体から信頼を得られるように助言していきたいと考える。